

トピック(テーマ)	真田氏研究の基本史料・古記録		
ねらい	真田氏研究に欠かせない史資料、古記録を挙げ、その道案内をする。		
キーワード	真田幸貫 河原綱紀 一徳斉殿幸隆 信綱寺殿信綱 長国寺殿昌幸 寒松院 大鋒院殿信之 大蓮院 大光院左衛門佐信繁 吉光の御長持 真武内伝 滋野世紀 真田通記 甲陽軍鑑		
概要を知るためのツール	1	書名	新編 信濃史料叢書 [第15巻―第18巻]
		著者名	信濃史料刊行会／編
		出版社	信濃史料刊行会
		出版年	1977
	内容紹介	<p>真田家御事蹟稿 本書は「真田家8代目藩主で英名の高い幸貫(ゆきつら)が初祖一徳斉幸隆以降代々祖先の事蹟が湮滅(いんめつ)して行くことと、世に流布する伝承に虚誕(きょたん)の少ないのを遺憾(いかん)に思い、真実を伝えるため家臣等に命じて改めて編輯させたものであります。」(「新編信濃史料叢書第15回配本にあたって」)</p> <p>この事業の中心になって編輯に当たったのは、真田家重臣河原綱紀で、天保9年幸貫から編纂(へんさん)を命ぜられ、7年の歳月を経て天保14年12月に至って、正編62巻に及ぶ大冊の編纂を完了した。</p> <p>内訳は、「先公御事蹟稿1巻につづいて、一徳斉殿幸隆関係上中下3巻、信綱寺殿信綱のものが1巻、長国寺殿昌幸関係が全14巻、寒松院殿昌幸夫人の部が1巻、大鋒院殿信之関係が全て25巻、信之夫人関係が上下2巻、大光院左衛門佐信繁(幸村)の部が4巻、…」である。(「新編信濃史料叢書第15回配本にあたって」)</p>	
		<p>真田家には「吉光の御長持(おんながもち)」というものが代々伝わっていた。その中に真田家重宝・吉光の短刀があった。この短刀は信之が関ヶ原合戦に当たり、二男信政(当時4歳)を質として江戸城に上げたとき、家康(秀忠)より、天下三名剣(吉光・正宗・義弘)の一つ藤四郎吉光の短刀を拝領した。真田家では家宝第一としてこれを堅牢な長持ちに特別重要書類と共に収めて昼夜の別なく藩士が交代でお護りしていた。</p> <p>その中身は家老でさえ見たことがなく秘蔵し保存されてきた。その書類等は廃藩後公開されたが、果たして関ヶ原の役のとき石田三成や五奉行から昌幸に送られた書状等が出てきた。幕府に発覚すれば、真田家の命取りにもなりかねない関ヶ原の戦い前夜の石田方からの密書は、藩祖信之の手によって秘蔵され、代々受け継がれてきていた。</p> <p>この諸文書によって昌幸の行動や石田方の計画した陣容等が明らかとなり、日本史上稀有の貴重文書となった。</p>	
	2	書名	真田家文書 [上巻・中巻・下巻]
		著者名	米山一政／編
		出版社	長野市
		出版年	1981―1983
内容紹介	<p>真田家には「吉光の御長持(おんながもち)」というものが代々伝わっていた。その中に真田家重宝・吉光の短刀があった。この短刀は信之が関ヶ原合戦に当たり、二男信政(当時4歳)を質として江戸城に上げたとき、家康(秀忠)より、天下三名剣(吉光・正宗・義弘)の一つ藤四郎吉光の短刀を拝領した。真田家では家宝第一としてこれを堅牢な長持ちに特別重要書類と共に収めて昼夜の別なく藩士が交代でお護りしていた。</p> <p>その中身は家老でさえ見たことがなく秘蔵し保存されてきた。その書類等は廃藩後公開されたが、果たして関ヶ原の役のとき石田三成や五奉行から昌幸に送られた書状等が出てきた。幕府に発覚すれば、真田家の命取りにもなりかねない関ヶ原の戦い前夜の石田方からの密書は、藩祖信之の手によって秘蔵され、代々受け継がれてきていた。</p> <p>この諸文書によって昌幸の行動や石田方の計画した陣容等が明らかとなり、日本史上稀有の貴重文書となった。</p>		
	<p>真田家には「吉光の御長持(おんながもち)」というものが代々伝わっていた。その中に真田家重宝・吉光の短刀があった。この短刀は信之が関ヶ原合戦に当たり、二男信政(当時4歳)を質として江戸城に上げたとき、家康(秀忠)より、天下三名剣(吉光・正宗・義弘)の一つ藤四郎吉光の短刀を拝領した。真田家では家宝第一としてこれを堅牢な長持ちに特別重要書類と共に収めて昼夜の別なく藩士が交代でお護りしていた。</p> <p>その中身は家老でさえ見たことがなく秘蔵し保存されてきた。その書類等は廃藩後公開されたが、果たして関ヶ原の役のとき石田三成や五奉行から昌幸に送られた書状等が出てきた。幕府に発覚すれば、真田家の命取りにもなりかねない関ヶ原の戦い前夜の石田方からの密書は、藩祖信之の手によって秘蔵され、代々受け継がれてきていた。</p> <p>この諸文書によって昌幸の行動や石田方の計画した陣容等が明らかとなり、日本史上稀有の貴重文書となった。</p>		
3	書名	真武内伝 乾ノ巻 坤ノ巻	
	著者名	竹内軌定／著	
	出版社	山岸重郷(手写)	
	出版年	1815年	
内容紹介	<p>松代藩主真田家歴代の系譜および事績を載せている。正編5巻が享保16(1731)年に、付録4巻が後にでき、異本もある。信濃史料叢書第四巻・第五巻にも掲載されている。</p>		
	<p>松代藩主真田家歴代の系譜および事績を載せている。正編5巻が享保16(1731)年に、付録4巻が後にでき、異本もある。信濃史料叢書第四巻・第五巻にも掲載されている。</p>		
資料リスト	1	書名	滋野世紀
		著者名	臣桜井亦七郎友直／著
		出版社	
		出版年	1733(享保18年癸丑6月)

	内容紹介	滋野世紀あとがきには、「心ひそかに思うに、天下の治国家の興廃は、歴史をたずねてみるのでなければ、その実際を知ることができぬものである。去年壬子(1732)の夏、主君真田幸弘公は、わたくしにお家の記録を著述するようにお命じになった。
	2 書名	真田通記
	著者名	真田町教育委員会／編
	出版社	真田町教育委員会
	出版年	1982
	内容紹介	昭和51年に発行された信綱寺の宝物「滋野通記」を改題して「真田通記」として翻刻、発行したもの。著者は松代藩士馬場広人政常で、恩田木工民親の事績を記した『日暮硯』(ひぐらしすずり)の著者でもある。
	3 書名	甲陽軍鑑 [上・中・下]
	著者名	磯貝正義／校注
	出版社	人物往来社
	出版年	1976
	内容紹介	戦国史料叢書
	4 書名	真田文書集
	著者名	藤沢直枝／編
	出版社	象山社
	出版年	
	内容紹介	1930年発行の上田史談会の復刻版
	5 書名	新三河物語 [上巻・中巻・下巻]
	著者名	宮城谷昌光／著
	出版社	新潮社
	出版年	
	内容紹介	第一次上田合戦の様子が書かれている。
雑誌	1 論題名	真田氏時代における織豊系城郭上田城の再検討
	著者名	倉澤正幸
	雑誌名	信濃
	巻号頁数	3次67巻9号
	2 論題名	真田氏と南信
	著者名	藤沢好古
	雑誌名	信濃
	巻号頁数	1次1巻1号
	3 論題名	真田宝物館所蔵真田家文書について
	著者名	北村保
	雑誌名	信濃
	巻号頁数	3次44巻12号
インターネット情報	1 サイト名	信州地域史料アーカイブ
	URL	https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2000515100
	2 サイト名	真田宝物館
	URL	http://www.sanadahoumotsukan.com/
	3 サイト名	国立国会図書館サーチ
	URL	http://iss.ndl.go.jp/
	4 サイト名	国立国会図書館デジタルコレクション
	URL	http://dl.ndl.go.jp/
新聞	1 記事	信之書状
	発行機関	信濃毎日新聞社(データベース)
	年月日	2016.10.27
	2 記事	真田特集
	発行機関	信濃毎日新聞社(データベース)
	年月日	2016.7.9~9.24
	3 記事	本多正信書状
	発行機関	信濃毎日新聞社(データベース)
	年月日	2016.10.13